

横浜にぎわい座 令和3年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	垣内委員	加世田委員	廣瀬委員	吉永委員
Ⅰ 文化事業①	<p>【評価する点】 引き続きコロナ禍で行動制限がかかる中、様々な工夫を凝らし、多様で多彩な事業を展開したこと、実施可能な事業は概ね実施されたであろうことは、アンケートの満足度からも見てとれる。また、若手を育成することにも積極的に取り組んでいることは高く評価したい。20周年プレ企画や野毛大道芸の開催など、できることに注力したこともよかった。また、市民サポーターとの連携も今後重要性を増すと思われる、共催実施ができたこと、あわせて学校へのアウトリーチは重要な事業であったと思われる。学校もコロナ禍で状況が大きく変動して、アウトリーチも大きな困難が伴ったであろうことを考えると、主催者側の負担も大きかったと思われる。その中で学校における体験、公演を継続できたことは、次につながるものと期待したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 令和3年度は、令和2年度に比べ、目標は達成できなかったが、明るい兆しも見えてきている。コロナ禍は社会全体に大きく影響しており、今後も利用者の戻りについては注視する必要があるが、運営者において、客観的な状況を直視しながら対応を工夫するという姿勢がしっかりとみられることから、努力の継続を期待したい。なお、総利用者数はどの程度あったのだろうか（データデータが見当たらなかったのを教えてください）。また、団体客の誘致についてはどのように考えているのか。今後団体客が戻ってきたときの対応についても検討していただきたい。地域にせよ、学校にせよ、コロナ禍でなかなかリアルでの連携ができない中、オンラインやリモートの活用は今後どうされるのであろうか。ライブの重要性は当然であるが、アウトリーチなどの動画配信といったことも考えられているのだろうか。</p>	<p>【評価する点】 ・新型コロナウイルス感染拡大があるなか、目標を上回る数の公演を実施できたこと、それに伴い、入場者数も目標を大きく上回る結果を出されたことは、感染対策に十分注力し来場者に安心感を与えられたから出来たことと思います。 ・特に、実力ある若手を起用した公演を目標の2倍近い数実施されたことや、登竜門シリーズも着実に実施されたことは、にぎわい座の「育成」する使命に応えていることと評価します。 ・「趣味をテーマの演芸会」など興味をひく企画を多種多様に実施し、にぎわい座のメニューを効果的に見せることができていると思います。鑑賞者の拡大に成果を出されたことと評価します。 ・web アンケートは、チケットプレゼントなどの工夫をして回答数を確保するなど、定着に向けた努力をされていることが確認できました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・コロナ禍で、団体や学校の動きが鈍くなっているかな、4校で実施できたことは評価したいです。今年度の感染症対策に万全を期して実施した実績をもって、積極的に働きかけ、次年度に繋げていかれることを期待します。 ・アウトリーチのあり方として、市民サポーター協働のモデル事業は大変よい実績と思います。調整事項の多い事業と思いますが、ぜひ、継続して実施先を開拓されるよう期待します。</p>	<p>【評価する点】 ・コロナ禍において達成指標を越える公演数・入場者数を実績としたことは評価できると思います。 ・にぎわい会員数について、目標を越える実績を上げたことを高く評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 ・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、目標を上回る数の講演を実施したこと。 ・多彩な公演(趣味をテーマとした公演や地元神奈川をテーマとした公演など)を実施して、大衆芸能ファンの裾野を広げる活動に積極的に取り組んでいること。 ・市民のニーズを把握するためのアンケートの回答数を増やすための工夫をしたこと。 ・コロナ禍の中で、「アウトリーチ」や「学校プログラム」に積極的に取り組んでいること。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・団体閲覧については、当分の間回復しないのではないかと思います。団体閲覧申込数の回復を過度に期待せず、他の方法での販促も合わせて検討されてはいかがでしょうか。 ・「創造・挑戦的な取組み」について、これまでの取組みとの比較において、どの点が「創造的」で、どの点が「挑戦的」なのか明確ではないように思います。また、挑戦的というのは失敗を許容するということでもあり、その点を加味した目標設定が求められるのではないかと思います。 ・若手実演家育成の取組みの中での「芸能ホール進出実現へのサポート」について、「次年度に向けた新たな支援策」が明記されておらず、評価することができませんでした。来年度以降の計画では、検討された支援策を目標として明記していただきたいと思います。 ・公演の来館者へのアンケート実施については、回答率を目標に掲げてはいかかかと思えます。アンケートに回答することがにぎわい座の維持・発展に結びつくことを来館者に理解してもらえるような発信の仕方も工夫していただければと思います。また、集計作業の効率化の観点からも、より一層 Web アンケートを積極的に活用すべき(また、来館者への理解を得る)と思えます。 ・企業や教育機関を連携した講座の企画・実施やアウトリーチについて、ニーズの発掘に努める等、より能動的に取り組んでいただきたいと思えます。</p>
Ⅰ 文化事業②	<p>【評価する点】 情報発信にも工夫を凝らし、SNSにも積極的に取り組んでいること、これまでの公演情報等のアーカイブ化も着実に進めていることは評価できる。地域との連携事業も全部ではないものの実施でき、次につながるものと期待している。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 SNSの反応はどうだったのだろうか。例えばフォロワーやいいねなどの反応も含め確認されたい。SNSは直接顧客の反応が分かるマーケティングツールとして重要性は増すだろうと思われる。地域連携も努力されているが、コーディネートにはかなりの負担が想定される。市民サポーターなどを即戦力として育てていただき、スタッフは、にぎわい座だからできる事業にかける労力・時間を確保する必要があるだろう。</p>	<p>【評価する点】 ・20周年プレ企画として布目氏の芸人列伝の連載を始められたことは、にぎわい座の歴史を周知する大変よい企画と思います。20周年企画が楽しみです。 ・Twitterの発信を、目標を大幅に上回る回数実施されたこと、内容も芸能に関する多様な情報となり、大衆芸能の情報発信元として成果を出されていることを評価します。 ・メディア懇談会や新聞記者の感想を広報に活用するなど、メディアを有効に使われていると思います。にぎわい座からの発信では伝わらない層に届く可能性が広がるので、引続き、効果的な関係をもっていただきたい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・連携事業は、コロナ禍で動きにくい状況が続いているなか、できることを実施されたと思います。こちらも調整事項の多い事業と思いますが、各所との関係を維持し、効果的に実施されることを期待します。</p>	<p>【評価する点】 ・電子根多帳に開場以来の公演情報を掲載していること、あわせて出演者経歴、演目解説を掲載していることを高く評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・「電子根多帳」の存在とその内容についての広報がもっとあればよいと思いました。HPでの掲載の仕方も工夫の余地があるのではないのでしょうか。 ・「にぎわい寄席」のチラシは単色で奇数月と偶数月で色を変えてあるが、どちらも色の濃度が薄いためやや読みづらく、訴求力も弱いのではないかと思います。</p>	<p>【評価する点】 ・ソーシャルメディアを活用して幅広い層に継続的に発信していること。 ・関係者と丁寧な意見交換を行うことで、良好な関係性を保っていること。 ・日米国際共同制作公演をサポートしたこと。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・ソーシャルメディアの活用については、Twitterだけではなく、InstagramやFacebookなど、幅広い層に向けて発信する方法を常に模索していただきたいと思います。また、ソーシャルメディアの特性を活かして、「いいね」や「コメント」などの、フォロワーの肯定的な反応を増やすことについても取り組んでいただきたいです。 ・「インターネットを利用していない層」とのコミュニケーション維持は重要と思いますが、業務効率化や経費削減とのバランスを図りながら取り組んでいただきたいです。 ・常設展や企画展については、来館者にソーシャルメディアで発信してもらうことを意識した展示の仕方についてもっと工夫されてはいかがでしょうかと思えます。 ・飲食関連については、引き続き積極的に取組むことが難しい状況が続くと思います。関係者との定期的な意見交換によって、状況把握やにぎわい座の対応についての関係者からの理解を得ることについて、これまで通り努めていただきたいです。 ・大衆芸能の「国際化」については、より積極的な取組みを期待しています。</p>

横浜にぎわい座 令和3年度指定管理業務評価シート（外部評価）

	垣内委員	加世田委員	廣瀬委員	吉永委員
II 施設運営	<p>【評価する点】 概ね目標を達成できていると思われる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 多様な事業を多彩に展開するにぎわい座は、スタッフの専門性も重要かと思うが、あまりに事業が多彩で多様であるとスタッフだけで対応できなくなるのではないかと懸念される。コロナ禍により感染対策業務などが追加的に派生したことで、組織内の人材育成に支障は生じなかったのだろうか。</p>	<p>【評価する点】 ・厳しい状況にありながら、稼働率を向上できたことは評価できます。 ・新たなプランとして掲げられた貸出しプランも、目標を上回る回数で実行されたことを評価します ・専門的人材の育成、職員のスキル向上の研修など、運営の根幹となる人を大事にしていることが伺えました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・スタッフ各自の気付きが活かされるよう、引続き、環境づくりや積極的な研修計画に努められることを期待します。 ・にぎわい座の課題に書かれていたように、‘大衆芸能分野における幅広い職員で専門性を深化される’ことを期待します。 ・引続き、ケアの必要な来館者（障がいある方や認知症傾向のある方など）の対応について、スタッフ全員の意識啓発とスキル向上に努められることを期待します。</p>	<p>【評価する点】 ・利用者へのサービス向上に向けPDCAの努力を重ねておられることを評価します。 ・持ち場持ち場の担当者のスキルの向上に努めるとともにチームワーク醸成に取り組み、組織的な施設運営に取り組んでおられることを評価します。 ・貸館を含め稼働率を昨年よりかなりの程度向上させておられることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 ・スタッフの安全面を最大限に考慮して運営していること。 ・中長期視点に立った人材育成方針を打ち出していること。 ・個人情報保護の徹底を図っていること。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・スタッフ一人ひとりが大衆芸能の維持・発展に対する責任感を持ち、チームワークを大切にしながら自発的に活動していくためにはどのような職場環境が必要なのか（課題を共有して全スタッフが意見を言える環境づくりや、接客スキルの向上についての具体的な取組み）について検討していただき、来年度以降の目標設定に反映していただきたいと思います。 ・個人情報を含むデジタルデータの適切な取り扱いについて、スタッフ間の認識の共有と日常的な情報流出防止の取組みを行っていただきたいです。</p>
III 維持管理	<p>【評価する点】 安全管理を徹底し、コロナクラスターの発生がなく、小破修繕も適切に行っているように思われる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 施設の経年劣化は止まらないので、指定管理者だけでなく、設置者との情報共有を密にしながら、適切な大規模改修等の計画を立てるべき時期に来ているのではないかと思う。（施設修繕計画はありますか。）</p>	<p>【評価する点】 ・感染症対策のガイドラインが改訂される都度、状況に応じた安心・安全な運営を実施されたことは評価できます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・災害時に備えたマニュアル検証やスタッフの対応訓練を、現場に即した形で継続されることを期待します。</p>	<p>【評価する点】 ・施設管理者の責任による人身事故なく、事故防止のため適切に配慮対応されていることを評価します。 ・感染状況の推移に応じて適切な感染症対策を施すとともに、全スタッフが参加しての避難訓練を2回実施されていることを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 ・来館者の施設快適性評価が高かったこと。 ・不具合発生時に迅速な対応が図られていること。 ・設備等の経年劣化についての把握が細部にわたって行われていること。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・限られた中での運営ではありますが、横浜市と丁寧に協議を行い、施設や設備の延命化を図っていただきたいと思います。 ・経年劣化に対応した防災に対する取組みに対する見直しを行っていただきたいです。 ・可能な範囲で施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいただきたいです。</p>
IV 収支	<p>【評価する点】 コロナ禍にあってもできるだけ利用を増やし収益を上げること、経費を節減する努力を継続したことは評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 団体客の喪失が大きなマイナス要因であったと考えてよいのだろうか。客を呼び戻す方策としてどのようなことを想定されているのか。</p>	<p>【評価する点】 ・コロナ禍で運営が難しいなか、利用料金収入は目標を大きく上回ったことは高く評価できます。 ・経費削減は、目標を着実に実行されました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・特に事務費・管理費の削減が大きかったようですが、今後事業が回復していく際に可能な数字なのか、検証をしていただきたい。</p>	<p>【評価する点】 ・入場料収入の目標が高すぎたのか、実績7,000万円超を高く評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p>	<p>【評価する点】 ・コロナ禍の中で、収支均衡に向けた不断の努力をしていること。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・円安やウクライナ情勢等により、今後光熱費の大幅な上昇が見込まれます。対応策の検討と実施について期待しています。 ・オリジナル商品開発だけでは、収益構造の大幅な改善は見込めないと思えます。クラウドファンディング等、これまでの取組みにとらわれない新たな収入の在り方について検討されてはいかがでしょうか。 ・「公演表方チーフ制」が経費（超過勤務）削減に対してどのような効果があるのかが資料では読み取れませんでした。今後、どのようにこのやり方の効果を測っていくのかについてもご検討ください。</p>
総括	<p>コロナ禍の下でもしっかりした事業展開により、回復基調が見えている。ご努力を評価するが、引き続き様々な創意工夫を望みたい。また、コロナ禍という突発的な困難に翻弄されているのはどこも同じだが、このコロナ禍で浮かび上がった課題は何か、どう対応するか、特にオンラインのさらなる活用を含め、ぜひこの時期考えてほしい。</p>	<p>・コロナ禍により、依然として運営が難しい状況のなか、安心・安全に注力しつつ、目標を上回る公演数を実施し、利用者増につなげたことは、スタッフ全員の努力があったからと、高く評価します。 ・にぎわい座の目指す姿に沿い、市民がより親しみやすいよう、幅広い演目・企画をうちたて、効果的に広報をされていると思えます。メニューが際立つよう、また定着するよう、一層の情報発信に期待します。 ・この厳しい状況下にあって、若手の登用がしっかりと進められていることが素晴らしいと思えました。にぎわい座が登竜門となり、にぎわい座に育てられた、という演者たちが増えるよう、一層の取組を期待します。 ・経年劣化は避けられないものなので、引続き、横浜市と丁寧に協議し、安全な施設を維持されるよう期待します。</p>	<p>・コロナ禍において年間186回公演を開催し、年間21,606人(1回当たり116人)の入場者を獲得されたことを高く評価します。 ・貸劇場・地域との連携等についてもたゆまず工夫と努力を重ねておられることを評価します。</p>	<p>全体的に、コロナ禍において来館者、演者、スタッフが安心して利用できる施設運営に努められたことは高く評価できます。引き続き、感染状況等の情勢を見極めながら、感染防止対策と来館者の利便性・満足との両立を図っていただきたいと思います。また、ステークホルダーとのコミュニケーションを常に図りながら、これまで以上に創造的かつ挑戦的な取組みを企画・実施していただきたいです。挑戦には失敗がつきものです。このような「良い」失敗を許容する環境づくりも必要ではないかと思えます。特に、大衆芸能の国際化や子どもの創造性教育について、より積極的な取組みを期待しています。業務の効率化を図ることと、幅広い層のニーズに応えることとのバランスを図ることは難しいことと思いますが、どのように両立できるか考えながら運営していただきたいです。また、光熱費の上昇や経年劣化等にどのように対応していくのか、団体客数や飲食関連事業の回復が見込めない場合にどうするのか、収益構造の抜本的な見直しも含めて引き続きご検討ください。</p>

令和3年度 横浜にぎわい座指定管理業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標①		達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
1 大衆芸能の公演、講座その他の事業を企画及び実施します。	【経常公演事業】 ①毎月1日から15日まで芸能ホールで自主事業を連日開催 ②所属団体・流派等に捉われないバラエティ豊かな出演者により、市民ニーズを満たす公演内容	□年間公演数	170公演以上	186公演	A	・12月興行から客席数50%→100%で販売。 ・出演者入院による公演中止2件(2、3月の円楽独演会) 8月から「横浜にぎわい寄席」を自由席から全席指定に変更。	【成果】 ・人間国宝の柳家小三治によるにぎわい座最後の独演会、立川談志没後10年となる命日(11月21日)の翌日に談志の長女松岡ゆみこ、元弟子のダンカン、立川談春による「ゆみちゃん寄席」を開催しました。さらに、根強い人気がある野球、鉄道、猫を主題に趣味をテーマにした公演、地元神奈川を主題とした落語、講談による公演、華やかな音楽ショー、テツandトモ、レ・ロマネスク、ポケによる「にぎわいTheショー」や「おぼん・こぼんとゆかいな仲間たち」など、バラエティ豊かな内容の公演を日替わりで開催しました。 【課題】 12月興行からチケット販売数を客席数50%から100%に戻しましたが、コロナ以前には毎回完売していた公演でもほとんどが完売には至らず、コロナ禍の影響がまだしばらく続くことが予想されます。広報の強化などにより、引き続き販促に努め、特に大幅に減少した団体観覧の申込数の回復が課題です。	【評価する点】 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に実施したうえで、目標を上回る数の公演が実施されました。刻々と変化する感染症対策ガイドラインや、時短営業の要請にも対応しながら、安全・安心な公演を実現したことを評価します。 ・横浜市唯一の大衆芸能の拠点として多彩で魅力的な公演を実施するだけでなく、コロナ禍においても、寄席体験プログラムやアウトリーチなど施設内外での取組も継続されました。子どもから大人まで、また、初心者から愛好者まで、様々な層に対するメニューが用意されました。 ・コロナ禍にあっても、若手公演を目標値以上に実施したことや、真打昇進の披露目となる公演を実施した点については、「将来の名人を育てる道場」としてのにぎわい座の取組が実ったものとして高く評価します。 ・コロナ禍でのアンケートの実施方法として、プレゼント付きWEBアンケートを実施するなど、利用者の声を集めるユニークな工夫がなされ成果を上げています。 ・寄席文字講座など、公演以外の面でも大衆芸能の魅力を発信するなど、愛好者の興味を引く企画が実施されています。 【更なる取組を期待する点】 ・新型コロナウイルス感染症による影響は、更に長期に及ぶことが考えられます。第四期の提案にあたっては、コロナ禍からの回復を意識した5年間の計画を立てていただきましたが、その時々状況に適切した事業手法を模索しながら、運営を進めてください。 ・コロナ禍からの回復に合わせて、徐々に団体客の誘致や地域との共催事業の実施が増えることを期待しています。 ・事業実施の難しい時期ではありますが、次世代に大衆芸能をつなげていく取組の継続をお願いします。
		□合計入場者数(月平均)	1,500人以上	1,801人	A			
		□チケット販売数(一公演あたり平均)	40枚以上	37枚	B			
		□子ども寄席	2回	2回	B			
		■みなとみらい地区の企業など団体誘致とファミリー層に向けてのPR活動の実施	実施	実施(1回)	B			
		□公演実施	月7回程度	月平均9回	A			
		□実力ある若手を登用	20公演以上	39公演53名	A			
(2) 創造的で発信性のある取組を実施します。	①創造・挑戦的な取り組み 企画公演(再掲)	■日本の伝統的な大衆芸能を紹介する企画公演	開催	開催	B	【成果】 獅子舞や万歳といった祝福芸で日本のお正月を再現する「新春特選 ニッポンの芸!」や、今年テレビ番組笑点の新メンバーとなった桂宮治の真打披露公演を開催、さらに関東とは異なる歴史、風土から生まれた上方文化に触れる機会になる上方落語の公演を計10回開催し市民の大衆芸能に対するニーズに応えました。 【課題】 ・市民ニーズの変化をとらえながら、新たな発信を行うことが必要です。また、伝統的な大衆芸能の魅力を伝える発信方法が課題として残っています。		
		■将来性のある新真打の披露公演	実施	実施	B			
		■「上方落語会」にぎわい座ならではの上方落語公演の開催	10公演以上	10公演	B			
		□年間公演数	10公演以上	14公演	A			
(3) 若手実演家育成の仕組みを作り実践します。	①主として小ホールを活用した若手育成 ※のげシャールで芸を磨き、芸能ホールへステップアップ」というコンセプトの明確化 「登竜門シリーズ in のげシャール」:若手芸人研鑽の場として小ホール(のげシャール)のシリーズ公演を実施	□年間公演数	20公演以上	21公演	B	【成果】 若手実演家の育成では、企画公演に実力のある若手を39公演53名を起用し、また若手実演家の研鑽の場である「登竜門シリーズ」を21公演実施しました。さらにコロナ禍においても休演することなく「にぎわい寄席」を実施することで、落語界における貴重な前座修行の場として貢献しました。また、登竜門シリーズ卒業生などの活動をサポートする仕組みを検討しました。 【課題】 コロナ禍で具体的に実施できなかった、若手演者の芸能ホールへの進出実現へのサポートを、より具体的な形で進める仕組みの作成が課題です。		
		□平均入場者数	50人以上	平均59人	A			
		■芸能ホール進出実現へのサポート	実施	未実施	-		コロナ禍のため今年度は具体的な支援ができませんでしたが、次年度に向けて新たな支援策を検討しました。	
		□「にぎわい座共催公演」の継続実施	1公演以上	1公演	B			

(4) 鑑賞者の拡大を図る取組を実施し、事業を支える仕組みを構築します。	16	①市民ニーズ把握の取組 ・全公演でのアンケート実施	□アンケートの実施回数	全公演実施	全公演実施	B	【成果】 コロナ禍の中でニーズの把握に努めるため昨年度に引き続きWEBアンケートを継続し、回答数を増やすためチケットプレゼントなどの工夫をしました。また時節を見極めつつ貸切公演等を積極的に開催しました。主催者との連絡を密にとり、当館の感染症対策の説明など実施にあたっての不安解消に務めたことで、利用後の満足度も高く、また利用したいとの感想が得られました。 【課題】 WEBアンケートがかなり定着してきましたが、一方で、スマホ等を使用していない年配者の声が届きにくい状況が考えられます。万遍なくお客様の声が拾えるような仕組みの検討が課題です。
	17	②鑑賞のすそ野の拡大・公演入場者数の拡大	■観客創造事業「趣味をテーマの演芸会」の実施(参加者1公演あたり平均)	60人以上	平均67人	A	
	18	③要請により貸切公演を開催し、新規顧客を開拓してリピートにつなげる	□貸切公演の開催	要請により2回以上	3回	A	
	19		□主催者の満足度(5段階)	4以上	5.0	A	
	20	④にぎわい会員制度を活用し、リピーター作りに活用	□会員数	22,000人達成	23,237人	B	
(5) 市民の大衆芸能に関する学習活動や創作活動を支援します。	21	「寄席文化体験」	□「橋流寄席文字講座」「大神楽曲芸体験講座」などの開催	受講者70人以上	32名	-	コロナ禍により募集人数制限
	22		■企業や教育機関と連携した講座	要請により実施	実施(1校3回)	B	
	23	「野毛まちなかキャンパス」	□講座の共催開催数	2回以上	1回	-	コロナ禍により回数制限および形を変えて開催
	24		□同会場提供数	3回以上	未実施	-	コロナ禍により別会場でオンライン化で実施
	25		□同職員の講師派遣数	2回以上	1回	-	コロナ禍により回数制限および形を変えて開催
	26		「バックステージツアー」 □一般向け(子供向け含む)開催数	2回以上	3回	A	
	27		□団体向けオンデマンド開催数	2回以上	未実施	-	コロナ禍により未実施(団体からの要望なし)
	28	「アウトリーチ」	□若手芸人の起用	3回以上	2回	-	コロナ禍により1回中止(にしょこ寄席)
	29		□市民サポーター協働のモデル事業としての実施	実施	実施	B	
	30		■個性的なロケーションでの演芸会の実施	実施	実施	B	
(6) 子どもの創造性育成の取組を行います。	31	「寄席体験プログラム」	「寄席体験プログラム」 □実施回数 6月、10月の2期に分けて開催	7回	4回	-	コロナ禍により上半期実施分が延期、2月実施予定分が中止
	32		■本事業を通じた学校との情報交換、「こども寄席」などのPR活動の連携	実施	未実施	-	コロナ禍により事業が縮小となり未実施
	33	「学校プログラム」	■要請に応じコーディネート実施	要請に応じて実施	実施(4校)	B	
	34	□教育委員会、教育機関との連携	アウトリーチや大衆芸能を主題にした研修会など	要請に応じて実施	実施	B	地元本町小学校5年生の「総合」の授業に協力

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
I 文化事業目標②	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
2 大衆芸能に関する情報の収集及び提供を行います。	①情報収集及び提供 公演情報の収集	■常に新鮮な情報が得られる配架方法を検討し実施	実施	実施	B	【成果】 ・ホームページを活用し、20周年プレ企画として館長、チーフプロデューサーである布目英一による「にぎわい座を支えた芸人列伝」の連載を始めるなど、大衆芸能の情報提供や広報を幅広く行いました。また展示事業では、引き続き感染対策のため密にならないよう内容を工夫しながら、新真打昇進記念品や新春ご挨拶手ぬぐいなどを展示しました。 ・地元紙との情報共有を密にし、チケット発売のタイミングに合わせて出演者のインタビュー記事を複数回掲載していただき、年間を通してにぎわい座の活動を広報することが出来ました。 【課題】 ・感染症対策の為、インターネットを活用した広報がメインとなりましたが、インターネットを利用していない層からの要望もあり、従来のチラシ等のネット以外の媒体を活用した広報についても、方法を検討していきます。	【評価する点】 ・開館20周年プレ企画である館長による「にぎわい座を支えた芸人列伝」は、意義深い記録になるものとして評価します。この取組が更に広まるよう周知に努めてください。 ・Twitterで大衆芸能に関する情報を発信するなど、コロナ等を理由に会場に来られないファン層にも楽しみを提供し、施設の利用促進に貢献する取組を継続した役割は大きいと感じます。 ・にぎわい座利用促進委員会との共催事業の再開にあたって丁寧な意見交換を行うなど、地域との良好な関係性が伺えます。 【更なる取組を期待する点】 ・コロナ禍により地域や他団体・施設との連携事業が実施しづらい状況となっておりますが、これまで構築した関係性の継続を期待します。	
	2	■町内会、野毛ちかみち掲示板の活用 通行人に向けて、にぎわい座の楽しみ方を紹介	実施	実施	B			
	3	公演情報の活用	■電子根多帳にすべての公演情報を入力	実施	実施			B
	4		■出演者経歴、演目解説など大衆芸能公演のアーカイブ化と継承を継続	実施	実施			B
	5	・情報提供、相談対応	□催事開催に関する相談対応や出演者の紹介などのコーディネート件数	30件以上	7件			C
	6	・広報、ホームページ ※訴求ターゲットを意識した公演チラシデザイン等の改訂 ※ホームページのコンテンツ拡充 等	□WEB会員へのメールマガジン年間配信回数	24回以上	36回			A
	7		「Twitter」 □年間配信回数	400回以上	738回			A
	8		公演情報や業務案内だけでなく多彩な内容でのTwitter発信 ■地域の行事 近隣施設のイベント情報を配信 ■大衆芸能に関する内容 ミニ知識、公演や楽屋の様子などを配信	実施	実施			B
	10		「チラシ」 ■公演やシリーズごとに訴求対象を明確にし、それに合わせた仕様を採用。落語未経験者を意識した掲載内容を考慮	実施	実施			B
	11		■財団の広報・ACYグループと連携したプレスリリースの実施	実施	実施(6回)			B
	12		■新聞記者など識者に公演を見てもらい、その感想を広報に活用	実施	実施(うち10回掲載)			B
	13	・メディア懇談会	メディア懇談会 □記者や編集者を対象にした懇談会を開催	1回以上	2回			A
	14	②展示・演出 ・2階展示コーナーで常設展・企画展を開催	常設展・企画展	感染症問題をクリアできた場合に実施	一部実施			B
	15	・1階エントランスの演出、1・2階オープンスペース等での情報掲示 ・展示事業の案内を1階エントランスやホームページに掲載	□季節の館内装飾展示替え回数	10回以上	12回			B
	3 街のにぎわいづくりに寄与します。	公演鑑賞と飲食の楽しみで相乗効果を図る取り組みの実施(感染問題収束の場合)	■感染症の状況や関連ガイドラインを注視し、野毛地区飲食業協同組合と連携し、芸能ホール公演時に「のげ茶屋」営業再開時期を協議・検討	再開の検討	(休業中)			-
野毛地区主催のイベントへの協力		■「にぎわい座利用促進委員会」との共催事業の実施	実施	一部実施	-			
		■野毛大道芸など地域主体のイベントへの協力	実施	実施(3回)	B			
MM21地区からの誘客		■MM21地区の就業者の交流団体向けイベントを実施し、野毛への誘客を実現	1回以上	1回	B			

4 市民と大衆芸能をつなぐ取組を行います。	20	②サポーター等との協働 ・にぎわいスタッフ	<input type="checkbox"/> にぎわいスタッフの声を活かすための改善提案アンケート実施数	2回以上	2回	B		【成果】 常に施設の顔として活動する「にぎわいスタッフ」の知見により、密にならない工夫や来場者導線など刻々と変更されるガイドラインに的確に対応することができました。またコロナ禍の困難な中でも市民団体等と協働してアウトリーチ活動を実施することができました。 【課題】 大衆芸能の振興や地域への浸透に関心があり、参加を希望する人材を増やすことが課題です。
	21		■チケット販売促進プロジェクト推進	実施	未実施	-	コロナ禍により未実施	
	22	・市民サポーター、市民団体、NPOとの協働 ※生徒・学生等の実地体験等を積極的に受入れ	■アウトリーチにおける市民団体等との協働	実施	実施 (2回)	B	コロナ禍により1回中止(にしよこ寄席)	
	23		[職業体験、アートマネジメント実習] ■学校や学生からの要望により、にぎわい座ならではの体験の場を提供	実施	実施	B		
5 都市戦略及び他施設と連携します。	24	①都市戦略との連携 ・横浜芸術アクション事業との連携	「ダンスダンスダンス」への協力 ■要請に合わせて、広報協力などを実施	要請に応じて実施	実施	B		【成果】 「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」と共催で、柳家花緑による「鶴の池(パレエ「白鳥の湖」を題材とした創作落語)」の口演のほか、その兄であり「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」ディレクターである小林十市との兄弟トークを実施しました。また、ヨコハマダンスコレクション2021-DECとして新人振付家によるコンペティションや日米国際共同制作公演を実施しました。 【課題】 連携事業の多くは意義深い取り組みですが、自館の負担を考慮に入れながらバランスよく計画することが肝要になります。
	25	「横浜ジャズブロード2021」	■会場運営チームに職員を派遣	実施	催事中止	-	コロナ禍により未実施	
	26	「横浜ダンスコレクション2022」	■会場提供、運営支援、広報協力を実施	実施	実施	B		
	27	・修学旅行やツアーでの企画商品化	<input type="checkbox"/> 修学旅行、横浜遠足等の鑑賞機会の提供	2件以上	3件	A		

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
II 施設運営目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価	
1 大衆芸能等の公演、練習、創作その他の活動のための施設の提供を行います。	1	基本的な施設の提供	<input type="checkbox"/> 開館日数・時間	341日(月2回 施設点検で休館) 10時~22時	実施	B	【成果】 コロナ禍において、利用者を中心に心を寄せて、しっかりとした感染症対策を講じながらより安全で快適な環境づくりに努めました 【課題】 コロナ禍で売り上げが減少する中、持続可能な運営体制の構築が課題となっています。	【評価する点】 ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、開館時間の変更等に柔軟に対応しました。 ・貸館においては非常に厳しい状況ではありましたが、施設の空き状況をTwitterで発信するなど利用促進の努力を続け、前年度と比較すると大きく回復しています。 ・大衆芸能の専門施設として要となる事業制作担当職員の育成が継続的になされていることが伺えます。 【更なる取組を期待する点】 ・各スタッフの技術向上のための人材育成を進めるとともに、個人情報の適切な管理や職員の人権意識や環境への意識をさらに高め、市民から信頼される人材育成に継続して取り組んでください。
	2	・貸館の運営体制 ※貸館受付:常時2名以上在席(舞台技術者は常時1名対応可)	③貸館の運営体制 ■職員1人を貸館メイン担当とし、舞台技術スタッフとともに公演打合せや利用相談にきめ細やかに対応	実施	実施	B		
	3	・舞台運営体制	■安全でスムーズに催物を実施できる、舞台技術スタッフの配置	実施	実施	B		
	4		■舞台技術統括責任者は経験10年以上、ほかのスタッフも経験5年以上	実施	実施	B		
2 利用促進及びサービスの向上、アイデア・ノウハウの一層の活用に取り組めます。	5	・稼働率目標	<input type="checkbox"/> 目標利用率			前年実績	【成果】 国などの助成金を活用した施設利用や、これまでコロナ禍を理由に利用を見送っていた団体のいくつかの利用を再開するなど、年度当初の目標には達しなかったものの利用率、利用料金ともに昨年度を超えることができ、少し明るい兆しも見られました。 【課題】 引き続き、コロナ禍の収束はさることながら、利用促進のあり方や体制の確保が課題となっています。	
	5-1		芸能ホール(日)	70%	68%	B		52%
	5-2		のげシャレ(日)	30%	49%	A		33%
	5-3		練習室(時間帯)	40%	48%	A		32%
	5-4		制作室(時間帯)	30%	26%	C		19%
		・利用率及び利用者サービスが高まる工夫	<input type="checkbox"/> 芸能ホールの寄席囲いを活用した共催利用の推進	実施	実施	B		
	6		<input type="checkbox"/> 土日祝日の施設空き情報をホームページ、SNSで案内	1回/月	実施	B		
	7		■利用希望者施設見学受け入れ	随時実施	実施 (32件)	B		
	8	・新規の利用者を増やすための工夫	■のげシャレでの演劇・ダンス公演希望者をサポートし、実際の利用につなげる	実施	実施	B		
	10	・要望苦情への対応	■貸館に関する要望、苦情は、すべて支配人・館長まで報告	随時実施	随時実施	B		
	11		■内容によって財団事務局や文化観光局に即時に報告	随時実施	随時実施	B		
	12	・1階エントランスの演出、活用プラン	■地域のインフォメーションに活用	通年実施	実施	B		
13		■団体用チケット受付等、第2の受付に活用	実施	実施 (1件)	B			
14		■公演の看板やチラシでにぎやかな雰囲気演出	実施	実施	B			
15	・売店事業者との連携	■売店と連携し、利用者の要望に応じた公演時の売店営業や弁当等の手配を仲介	通年実施	要望なし	-	コロナ禍により売店の営業を自粛		
16		■地元飲食店組合協力による特製弁当の提供	実施	要望なし	-	コロナ禍により売店の営業を自粛		

	18	・第三期の新たな貸出プラン/利用者サービス	□撮影での貸出	年2回以上	8回	B	
	19		■貸出施設以外の撮影有料貸出(継続)	実施	要望なし	-	
	20		□貸館公演サポート業務を広報し、受託大判ポスター、チケット印刷、表方業務	実施	実施 チケット印刷3公演 表方受託2公演	B	
3 組織的な施設運営を行います。	21	①適切な運営組織体制と人材の配置	■適切な人員の配置と運用 ※館長・CP1、支配人1、TL1(管理1)、担当L1(事業1)、職員5(管理3、事業2)、アルバイト1(1人1ポスト)、公演表方チーフ1(1人1ポスト)、にぎわいスタッフ最大30 ※一部兼務する場合あり	実施	実施	B	
	22		■勤務体制は各2人以上のシフト制とし、主催事業や貸館状況に応じて職員・スタッフを配置	実施	実施	B	
	24	②主要人材の能力確保、研修実施、スタッフの育成・チームワーク醸成の取組み	■大衆芸能分野のプロデューサーを館長とし、事業担当職員を専門職員候補として中期的に育成	実施	実施	B	
	25		■社内外の研修参加や資格取得を奨励	実施	実施	B	
	26		■課題を共有し、全スタッフが意見を言える環境づくり	実施	実施	B	
	27		■研修やOJTで、窓口スタッフの接客スキル向上を図る	実施	実施	B	
4 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組を行います。	28	①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	① 個人情報保護・情報公開 ■「財団の個人情報保護に関する規程」「にぎわい座個人情報取扱マニュアル」を遵守	実施	実施	B	
	29		■ファックス送信や郵送の際のダブルチェックの徹底	実施	実施	B	
	30		■入場券販売やメールマガジン配信に票券管理システムを導入し、紙ベースでの顧客情報保管を廃止	実施	実施	B	
	31		② 人権尊重 ■人権研修への参加、職場内での研修実施	実施	実施 (1回)	B	
	32		□にぎわいスタッフ向け接遇研修実施	2回以上	2回	B	
	33		③ 環境への配慮 ■施設の利用状況を小まめに確認しながらの空調・照明のオンオフ操作による光熱水費の削減	実施	実施	B	
	35-1		④ 市内中小企業優先発注 □備品・消耗品購入	90%以上	75.70%	C	コロナ禍による売り上げ減少により必要最低限の執行とすることで、舞台設備関係の消耗品の購入や修繕等が市内中小企業では対応しておらず、発注割合が大きくなりました。
	35-2		□修繕・備品の買い替え	90%以上	38.30%	C	
35-3		□印刷物	80%以上	99.40%	A	【参考】前年実績①24%③25%③100%	
							【成果】 大衆芸能分野での専門性向上、人材育成はチーフプロデューサーを中心に進んでいます。 また、コロナ禍の中、スタッフの安全性を最大限に考慮した配置と運用に努めました。
							【課題】 事業(興行)面はもとより劇場運営、広報など、大衆芸能分野における幅広い職域で専門性を深化させることが課題です。
							【成果】 スタッフ全員に個人情報保護等を再認識させ、全員がルールを守る職場環境を整え、業務が円滑に進むよう取り組みました。
							【課題】 引き続き、スタッフ全員がコンプライアンス意識を深め、業務に取り組みます。

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価	
Ⅲ維持管理目標	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項	自己評価	行政評価
1 施設及び設備の維持保全及び管理	①施設及び設備の維持保全及び管理	■建築設備、舞台設備の施設保守管理業務項目一覧に明記された保安全管理及び点検の遺漏ない実施	実施	実施	B	【成果】 施設・設備の維持保全では、特に空気環境の維持や各所消毒に重きを置きつつ各業務遺漏なく実施しました。 【課題】 竣工から20年が経過し、劣化等により安定的な運営リスクが高まっています。	【評価する点】 ・「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等に沿って、来館者に安心感のある運営を行うなど、安全管理意識の高さを評価します。 ・不具合発生時には設備業者、保守管理会社や管理組合と連絡調整を行い、市側とも迅速な状況共有が行われました。 【更なる取組を期待する点】 ・集客施設という性質上、今後も感染症や風水害に対する取組が求められます。現場で感じた課題等については横浜市と共有・協議を進めながら、柔軟かつ臨機応変な対応を期待します。 ・保守点検や小破修繕を引き続き確実に実施するとともに、施設の不具合情報については横浜市などの関係者と密なる共有をお願いします。 ・高齢者や障害者など様々な来場者に対するスタッフ全体の接客スキルの維持・向上を期待します。 ・災害発生時に備えた体制の維持のため、訓練やマニュアルの検証等を継続して行ってください。
		■委託業者により設備系及び消防系の目視点検を毎日実施	実施	実施	B		
		□設備の不具合による施設貸出停止ゼロ	0件	0件	B		
		□来館者アンケートの施設快適性評価(5点満点)	平均4以上	4.17	B		
2 小破修繕の着実な実行	①小破修繕の取組	■優先順位を的確に判断しての修繕、更新の実施	実施	実施	B	【成果】 修繕では、設備等の経年劣化が進行するなか、横浜市と丁寧に協議しながら適切に対応しました。 【課題】 舞台、空調、電気、EVなど開館から20年が経過し、経年劣化により小破修繕だけでは解決できないことが予想されます。	
3 事故予防及び緊急時の対応	①事故防止体制、緊急時(防犯)の対応・感染症対策等衛生管理の実施、複合ビル内の連絡体制の確保	① 事故防止対策、緊急時(防犯)対応 □施設管理者有責による人身事故件数	0件	0件	B	【成果】 昨年度に引き続き、すべての来館者が、施設を安心・安全に利用できることを主眼に、刻々と更新されるガイドラインの動向を正しく把握しながらこれまで蓄積された知見を活かし感染症対策に努めました。 【課題】 安全管理や事故防止対策等を講じ、引き続きどのような方に対しても安心安全な施設運営に努めます。	
		■スタッフ及び委託業者による巡回を実施し、建物や設備の不具合、危険を早期に見出し、適切に対応	実施	実施	B		
		■ケアの必要なお客様来場時には、スタッフが連携をとって見守り、適切な距離感で補助を行う	実施	実施	B		
		■スタッフ及び委託業者による巡回で異常を早期に見出し	実施	実施	B		
		②感染症対策 ■横浜市と連携しながら、感染症対策に万全を期す	実施	実施	B		
		■アルコールや消毒液を常備し、利用の前夜やスポーツなど効果的な清掃実施	実施	実施	B		
		■すべての来館者に対し、検温や手指消毒を実施	実施	実施	B		
		■貸館主催者と綿密に打合せ、協力して感染症対策に取り組み、安全・安心を確保	実施	実施	B		
4 防災に対する取組	①危機管理マニュアルの整備及びそれに基づく訓練の実施、その他防災に関する事項	■現行マニュアルの検証と法令等に合わせた必要な改訂	実施	実施	B	【成果】 コロナ禍の中、適宜改訂される「横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」等に適切に対応しました。 【課題】 常に更新される災害等の想定を考慮したマニュアルの見直しは課題になっています。	
		■天候異常や交通機関の停止時には、休館や開館時間の変更など、施設と利用者、スタッフの安全を確保する対策をとる	実施	実施	B		
		□全スタッフ参加の避難訓練実施	2回以上	2回	B		
		帰宅困難者及び避難者の受入れ ■災害時には横浜市の要請に応じ、帰宅困難者一時滞在施設・避難受入施設と同様、避難者の受入れを行う	実施	要請なし	B		

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
IV 収支	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項		自己評価	行政評価
1 適切な収支構造及び収支バランス	1	(収支計算書) 適切な収支構造、収支バランスの確保	実施	実施			<p>【成果】 コロナ禍により大変厳しい運営環境のなか、自主事業収入は昨年度に比べ126%、施設利用収入は昨年度に比べ151%となりました。</p> <p>【課題】 団体向け販売を中心に券売の低迷が続き回復の目途が立っていません。新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応に伴う横浜市の負担金により今年度の収支は均衡となりましたが、持続可能な運営ができるように横浜市や財団事務局と対応について引き続き協議していきます。</p>	<p>【評価する点】 ・前年度と比較して、自主事業収入及び施設利用収入が大幅に回復しています。公演の券売制限の撤廃の際には、単に利益を追求するだけでなく、感染状況や観客心理に十分に配慮して取組まれたことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 ・事業収入により収支の均衡を保ってきた横浜にぎわい座にとって厳しい状況が続きますが、健全な収支に近づけるための運営見直しについても、不断の検討をお願いします。</p>
2 指定管理料にのみ依存しない収入構造	2	①指定管理料のみに依存しない収入確保の取組 ①利用料金収入の確保 □収入目標	10,000千円	¥12,219,100	A	【参考】前年度8,061千円(前年比150%)		
	3	②チケット受託販売 □受託実績 ※公演月若しくは精算月に計上	10公演以上	14公演	A			
	4	■預かりチケット取扱い公演をPRする 催し物案内、HP公演情報の掲載 チラシ配架、ポスター掲出	実施	実施	B			
	5	③自主事業収入の増収 □入場料収入	106,000千円	¥70,715,010	C	【参考】前年度55,355千円(前年比128%)		
	7	□団体販売実績	10団体以上	10団体	B			
	8	④協賛金の獲得 □協賛(現物協賛を含む)件数	1件以上	1件	B			
	9	⑤オリジナル商品開発及び販売	60千円以上	¥79,760	A	※決算前につき暫定値		
	10	□オリジナルグッズ 画家とコラボした商品;落語家てぬぐい	1種類以上	落語家てぬぐい・大入りチケットホルダー	A			
	3 経費削減及び効率的運営努力	11	⑦経費削減 ■入札、見積り合わせの徹底	実施	実施	B		
12		■計画的なチラシ発送による郵送料の削減	実施	実施	B			
13		⑧コスト意識 ■シフト調整、公演表方チーフ制による業務分担の見直し等による超過勤務削減	実施	実施	B			
14		■超過勤務の事前申請の徹底	実施	実施	B			
							<p>【成果】 掲げた目標を着実に実施しました。</p> <p>【課題】 表方チーフ制は効果的な取り組みであるため引き続き継続していきますが、今後は継続的に人材の確保が課題になります。</p>	

評価項目		R3年度計画		実施状況		評価		
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	目標	実績	特記事項		自己評価	行政評価
1							<p>【成果】 文化事業では、主に落語と多彩な色物で寄席の芸と雰囲気を楽しめる「横浜にぎわい寄席」、ネタおろし、名作の継承や新作発表など演芸界を活性化させる独演会、趣味をテーマにした演芸会、のげシャレーの小劇場的空間を活かした落語、漫才、コント、音楽ショウなどの公演、若手芸人が研鑽を積み「将来の名人を育てる道場」とするシリーズ公演「登竜門シリーズinのげシャレー」など、公演毎の特徴を明確に示して主催公演全体を安定的に実施しました。</p> <p>施設運営・管理では、昨年度に引き続き、すべての来館者が、施設を安心・安全に利用できることを主眼に感染症対策に努め、利用率、利用料金ともに昨年度を超えることができ、少し明るい兆しも見られました。また施設・設備の維持保全では、特に空気環境の維持や各所消毒に重きを置きつつ各業務遺漏なく実施しました。修繕では、設備等の経年劣化が進行するなか、横浜市と丁寧協議しながら適切に対応しました。</p> <p>収支では、コロナ禍により大変厳しい運営環境のなか、自主事業収入は昨年度に比べ126%、施設利用収入は昨年度に比べ151%となりました。</p> <p>【課題】 「笑いは健康の源」を信念に、子どもから大人まで幅広い層を対象として、大衆芸能の持つ魅力や可能性を様々な手法を通じて働きかけ、日本の文化、大衆芸能への理解を深め、大変難しく苦しい新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中においても「大衆芸能が後世に受け継がれ、横浜にぎわい座が市民に愛され、その活動を通じて市民生活や地域を活性化することを目指しました。利用者に心を寄せて、しっかりと感染症対策を講じながらより安全で快適な環境づくりに努めますが、依然団体向け販売を中心に券売の低迷が続き回復の目途が立っていません。新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応に伴う横浜市の負担金により今年度の収支は均衡となりましたが、持続可能な運営ができるように横浜市や財団事務局と対応について引き続き協議していきます。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、まん延防止等重点措置や感染症対策ガイドライン等の内容に応じて、時短営業などに柔軟に対応したほか、感染症対策を十分に検討・実施したうえで、安全・安心な施設運営がなされました。</p> <p>・とりわけ、公演については目標値を上回る回数の公演を、幅広い演目において実施し、演者の活動の場の確保に寄与しました。また、チケット販売数の客席定員50%制限の撤廃にあたっては、単に利益追求のためではなく、感染状況や観客心理を踏まえたうえで判断するなど、常に来場者の視点を意識して施設を運営していることが感じられます。</p> <p>・厳しい経営状況は当面の間続くことが想定されますが、横浜市芸能センター条例第1条に掲げられている『落語、漫才その他の大衆芸能(以下「大衆芸能」という。)の振興を図る』という設置目的を達成するため、次世代育成や社会包摂など、公営の演芸場として事業のバランスを取りながら運営を進められることを期待します。</p> <p>・第四期指定期間の提案書においては、段階的に通常期に回復する想定で計画がなされていますが、施設運営の様々な側面において継続して対策を検討する必要があります。これまでの発想にとらわれない取捨選択や事業転換の検討が常に必要になると考えられます。時には業務の基準や提案書にとらわれない運営も必要になる時期ですので、市と協議のうえ、柔軟かつ臨機応変な対応も先行して検討してください。</p>